



まつした よしのぶ ●  
1973 (昭和48)年、法学部法律学科卒業。1950年生まれ。熊本県出身。全日本学生剣道大会での初優勝をはじめ、多数の輝かしい戦績をおさめる。卒業後、警視庁に奉職、剣道を通じて警察官の指導にあたる。2011年、定年退職。同年より監督就任。

■ 剣道部

創部：1924 (大正13) 年  
現在の部員数：男子40名、女子6名

日本の伝統を受け継ぐ

剣道と柔道。

剣道部はベテランの松下吉進監督、

柔道部は若手の高橋歩監督。

年代は違っても指導への思いは、  
ともに熱い。

監督としての考え方をはじめ、

夏の合宿について目的や成果を  
お聞きした。

礼儀を重んじる。  
あいさつを大切に。

剣道は、礼儀を非常に重んじるスポーツです。部員たちにも、「あいさつができたなら一人前だ」と、いつも言っています。また、あいさつだけではなく服装、立ち居振る舞いなども同様に、きちんとするよう指導しています。したがって、私自身も言葉だけではなく、すべてにわたり行動で「範」を示さなければいけない、と考えています。

指導の基本は、「交剣知愛」です。これは剣道用語で、「いろいろな方と稽古

しなさい。剣道を通じて交流し、友だちをたくさんつくりなさい」という意味合いです。単に稽古をするのではなく、「交剣知愛」の精神で愛情込めて稽古し、立派な社会人としての下地をつくる。それが大学生活であり、剣道を通じての人間形成であると、信じています。

剣道は一人稽古も出来ますが、たくさんの方とお手合わせすることによって、自分が強くなることが出来ますし、いろいろなことを勉強させてもらいます。稽古が終わったら、相手に感謝の念を持つ。それが非常に大事です。それは、親兄弟に対しても同様です。「親しき仲にも礼

儀あり」感謝の念を持って接するようにしています。

夏の合宿で、技術を高め、  
団結心を深める。

通常は授業優先ですし、所属学部もさまざまです。部員全員が土曜日以外に揃うことは、なかなか難しい状況です。

合宿ですと全員が揃い、涼しい環境で剣道に没頭できます。個々のレベルアップはもちろんですが、剣道部の団結心を高めることも、合宿で寝食をともにすることで



第59回 全日本学生剣道優勝大会3位 (平成23年10月) (撮影/山内夏穂<人間科学3年/専大スポーツ>)



剣道部合宿 (撮影/齋藤実経営学部准教授・剣道部副部長)

可能となります。合宿は春と夏の2回、実施していますが、夏の合宿は一番の目標とする、秋の関東および全日本学生剣道優勝大会に向けてということで、非常に重要であると考えています。

寝食をともにし、一緒に生活することで、部員の新しい側面、それまで気が付かなかった側面などが発見できるのも、合宿のメリットですね。

通常は、生田キャンパスの第2体育館1階剣道場で練習を行っています。校友の方々が、練習を見学することもできます。電話での予約などは不要ですので、気軽にお越しください。(談)

# 「交剣知愛」 松下吉進 の精神。 剣道部監督

高橋監督へ お互い専修大学の体育会の仲間として、それぞれの目標達成に向けて頑張りましょう。今後はさまざまな交流を、心がけていきたいと思っています。

松下監督へ まだまだ、柔道部はこれからですが、日本伝統の武道の精神を大事にしながら、一緒に専修大学を盛り上げていきたいと思っています。

# すべては表裏一体。 高橋歩 柔道部監督

柔道と私生活は表裏一体です。

私の基本的な考えとしては、柔道と私生活は表裏一体だと思っています。普段から向上心のある生活を心がけている選手は、柔道も強くなります。逆に私生活



の乱れから力が落ちてくる選手も少なくありません。

専修大学柔道部が私の原点であったように、部員にも、柔道でも大学生活でも、何か一つこれはやり切ったと言える達成感を感じて欲しいと思います。一つのことに徹する中で学び鍛えた力や経験は、社会の中で必ず役に立つと思うからです。また、どんなに強くても、自らの使命感が無かったり、仲間との志が同じでなければ、自分のことしか見えない、視野の狭い人間になってしまいます。今おかれている現状に甘んじずに、なんでもやってやろうという挑戦意欲を持って自分を

向上させてほしいと願っています。

夏の合宿は、初の試みとして  
長野県警と合同練習。

夏の合宿は、毎年長野県須坂市の峰の原高原で行っています。午前中は心肺機能を高めるため、標高1,500mのクロスカントリー・コースで2時間ほど走り込みを行ない、午後は須坂市の柔道場で4時間の稽古という内容です。午前中の走り込みは、早稲田大学競走部も走っているコースです。どんなスポーツでも「走ることが基本」であり、基本をおろそか



柔道部合宿 (撮影/竹元涼さん(平21・商業))

にしてはいけないと考えています。

今年初めての試みとして、長野県警の方々が合宿に参加してくれたことは、大変貴重な経験となりました。柔道部コーチの警察人脈を通じて積極的にアプローチしたらOKができました。主力の強い選手ばかりで、部員たちにとっても、普段、対戦できないような選手とのレベルの高い稽古は、大きな収穫となりました。

また、県警の選手からも「専修とレベルの高い稽古ができて良かった。来年もお願いしたい」とのありがたい連絡をいただきました。長野県警の方々から稽古の成果を認めてもらったことは大きな自信につながったことと思います。

普段は生田キャンパスの総合体育館地下1階柔道場で稽古を行なっています。部員たちも見てくださる方が多いと稽古にも力が入るようですので、ぜひ、お気軽にお越しください。(談)



たかはし あゆむ ●  
2003 (平成15)年、商学部商業学科卒業。1980年生まれ。東京都出身。卒業後、専修大学に就職。現在、教務課において経済学部担当。2004年から監督就任。職員、監督の両面から学生を指導。

■ 柔道部

創部：1932 (昭和7) 年  
現在の部員数：男子30名